

論文

社会福祉士・精神保健福祉士実習分野紹介冊子の有用性

赤澤輝和

Usefulness of Introductory Booklet for Social Worker Training

Terukazu Akazawa

本研究の目的は、社会福祉士・精神保健福祉士実習分野紹介冊子の有用性を検討することである。社会福祉士・精神保健福祉士の実習分野選択にあたり、実習分野紹介冊子の配布を行い、実習分野選択後、質問紙調査を行った。3年生29名に質問紙を配布し、全員より回答を得た。86%が実習分野紹介冊子が総合的に「役に立った」、「とても役に立った」と評価した。閲覧後の行動は平均1.6認められ、最も多かったのは「自分で詳しく調べた(62%)」であった。また、実習分野紹介冊子で知りたかった情報について、自由記述を内容分析した結果、【実習に関する具体的な事】、【先輩の実習体験】の2カテゴリーに分類された。実習分野紹介冊子の有用性と改善点が明らかになり、より有効に活用するためには配布時のインストラクションや使用方法など、学生の行動化を促進する説明の必要性が示唆された。

キーワード：社会福祉士、精神保健福祉士、実習分野紹介冊子

1. はじめに

日本女子大学人間社会学部社会福祉学科(以下、本学科)では、社会福祉士、および精神保健福祉士国家試験受験資格の取得が可能である。養成校においては、受験資格取得を卒業要件としているところもあるが(渡辺 2013)、本学科では選択である。ここ数年の傾向として、30%程度が社会福祉士を、4%程度が精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得している¹⁾。つまり、学生にとっては本学科入学後、国家試験受験資格を取得するかどうか選択することになる。

本学科において、学生が入学後に選択を行う主なものとして、2年次のコース選択²⁾、3年次のゼミ選択がある。選択にあたっては、冊子が作成され、説明会が行われる。一方、社会福祉士・精神保健福祉士については、冊子の配布や説明会の開催もない。現状としては、学科オリエンテー

ション、履修の手引き、および社会福祉実習論の講義の中で情報提供が行われているのみである。さらに、社会福祉士については、実習分野の希望を提出する必要がある、各分野の情報については希望票に記載されているのみである(表1)³⁾。そのため、先輩、同級生間の口コミによる情報入手の可能性も高く、正しい情報を提供する機会が必要と考える。また、2年次のコース選択、3年次のゼミ選択については、冊子は作成されているが、学生の視点から有用性を検討したことはない。よって、社会福祉士・精神保健福祉士の実習分野について紹介した冊子の作成と有用性の検討を行うことは価値があると考えられる。

社会福祉ニーズの多様化・高度化に伴い、2007年には社会福祉士及び介護福祉士法、2010年には精神保健福祉士法が改正された。それに伴い、養成カリキュラムも変更され、より高度な実践力

表1 社会福祉士・精神保健福祉士実習希望票による実習分野紹介

実習分野	紹介内容
医療福祉	大学病院、一般病院、がんや小児などの専門病院、リハビリテーション病院、療養型病院など
児童福祉	児童福祉施設・機関（児童養護施設、児童相談所など）
障害福祉	障害者支援施設 ・知的障害者福祉（就労支援、生活介護などのサービスを提供する通所施設、あるいは生活型施設 注：実習期間が決まっているので注意すること ・身体障害者福祉（就労支援や自立訓練・生活介護・療養介護などを行う通所施設、あるいは入居施設、リハビリテーションセンターなど）
高齢福祉	地域包括支援センター、独立型社会福祉士事務所、デイ・サービス、老人保健施設、特別養護老人ホームなど ※地域包括支援センターによっては、児童から高齢者までの幅広い対象者へのプログラムやサービスを行っているところがあります
地域福祉	市町村社会福祉協議会、社会福祉事務所など。社会福祉協議会が運営する児童、障害、高齢分野の施設実習の組み合わせを含む
精神保健福祉	精神科病院・クリニック、精神保健福祉センター、就労継続支援・相談支援をはじめとした地域施設など

社会福祉士・精神保健福祉士実習希望調査票より引用一部改変

を養成するものとなった。その実践力は実習だけで獲得することは困難であるため、実習指導が重要である（川上 2008）。そして、その基盤には実習に向けての動機づけを維持・向上させるための主体的な学びの必要性が示唆されている（原田 2012）。よって、本学科においては実習分野の選択から、そのプロセスにおいて主体的な学びを促進できる可能性がある。

本研究の目的は、実習分野を選択する学生から見た社会福祉士・精神保健福祉士実習分野紹介冊子の有用性を明らかにすることである。

2. 対象・方法

本研究は、実習教育の一環として作成された社会福祉士・精神保健福祉士実習分野紹介冊子（以下、実習分野紹介冊子）に対する質問紙調査である。調査は、日本社会福祉学会の研究倫理指針に

基づき実施した。講義担当教員より、回答は自由意志に基づくこと、個人が特定されないこと、成績評価に影響することはないことが説明された。調査票の提出をもって調査への同意とした。

(1) 対象

2015年度社会福祉援助技術演習Ⅰを履修する3年生29名を対象とした⁴⁾。現在、本学科では3年前期に実習分野の選択を行う。3年前期において、社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格受験資格を希望する学生がすべて履修するのが本科目であり、3クラスに分かれて行われている⁵⁾。

(2) 社会福祉士・精神保健福祉士実習分野紹介冊子

実習分野紹介冊子は本学科実習委員会が企画の承認を得た後、作成された。実習分野を選択する

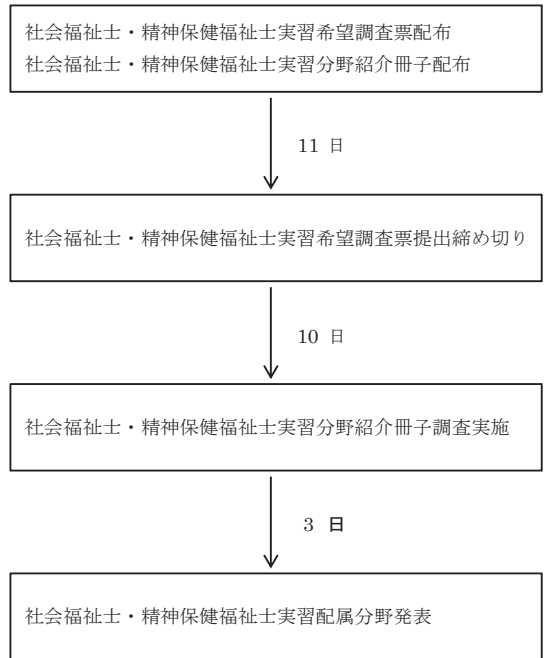
にあたり、学生が知りたい情報を明らかにするため、実習分野配属後実習前の4年生5名にフォーカスグループインタビューを行った。その結果、実習分野を選択する際に知りたかった情報は、【実習指導や実習ではどのようなことを行なうのか】、【どのような学生が配属されるのか】、【実習先はどのように決まるのか】、【実習はどこへ行くのか】の4カテゴリーに分類された。また、実習指導室について、「場所がわからなかった」、「先輩の実習記録が置いてあることを知らなかった」という発言があった。

フォーカスグループインタビューの結果を踏まえて、実習分野紹介冊子の構成は序文、冊子および実習関連科目履修上の注意点、医療福祉・児童福祉・障害福祉・高齢福祉・地域福祉・精神保健福祉の各分野紹介、実習指導室の紹介とした。各実習分野紹介内容は、「Ⅰ. 実習指導および実習概要」、「Ⅱ. 期待する学生像」、「Ⅲ. 配属方針」、「Ⅳ. 過去3年間の実習実績」、「Ⅴ. メッセージ」とした。実習指導室の紹介には、実習関連事務業務、先輩の実習記録閲覧、国家試験対策書籍設置の情報を含めた。実習分野、および実習指導室紹介は、Microsoft Word 2010で作成したフォーマットに基づき、各担当教員が執筆した。各担当教員が執筆した情報については、レイアウトのみ編集し、A4版8頁の冊子が完成した。冊子の情報量としては、主たる内容である各実習分野の紹介はA4版1頁であり、平均文字数は1082文字であった。記載内容は、学生が実習分野紹介冊子閲覧後、主体的な学びを促進させることを目的として概要のみとした。

(3) 調査方法

社会福祉援助技術演習Ⅰの担当教員より、調査の趣旨を説明し、調査票を配布した。調査票は講義を行う教室で記入する集合調査法を用い、回収

図1 調査と実習配属分野発表までの流れ



は教室に設置した回収箱に提出を求めた。調査の趣旨説明から調査票の回収までのすべての過程は、講義開始前に行なわれた。図1に調査と実習配属分野発表調査の流れを示す。

(4) 調査項目

本研究の主要評価項目は実習分野紹介冊子の有用性である。有用性は、「総合的に実習分野紹介冊子は役に立ちましたか？」の問いに、1：役に立たなかった、2：あまり役に立たなかった、3：どちらともいえない、4：役に立った、5：とても役に立った、の5項目で評価した。また、「実習分野の概要を知ること」、「実習分野について自分で調べること」、「実習分野を選択すること」についても5項目で評価した。

副次的評価項目は行動である。実習分野紹介冊子を読んだとった行動について、「自分で詳しく

表2 実習分野紹介冊子の有用性

	役に立た なかった	あまり役に 立たなかった	どちらとも いえない	役に立った	とても役に 立った
総合的に	0 (0%)	0 (0%)	4 (14%)	16 (55%)	9 (31%)
実習分野の概要を知ること	0 (0%)	0 (0%)	1 (3%)	17 (59%)	11 (38%)
実習分野について自分で調 べることに	1 (3%)	1 (3%)	8 (28%)	14 (48%)	5 (17%)
実習分野を選択することに	0 (0%)	0 (0%)	7 (24%)	13 (45%)	9 (31%)

調べた」、「先輩の記録を閲覧した」、「実習指導室で相談した」、「担当教員に相談した」、「先輩に相談した」、「家族に相談した」、「その他」の選択肢を設定し、あてはまるものすべてについて複数回答を求めた。

最後に、実習分野を選択するにあたり、「実習分野紹介冊子でもっと知りたかった情報はありますか?」について自由記述を求めた。

(5) 分析

量的データは度数分布を集計した。自由記述については、Krippendorff (1980) の内容分析を参考に行った。自由記述から意味単位として抽出し、意味内容の類似性・相違性から分析し、カテゴリーを作成した。

3. 結果

社会福祉援助技術演習Ⅰ履修者29名すべての学生(100%)より回答を得た。

(1) 実習分野紹介冊子の有用性

実習分野紹介冊子の有用性について、表2に示す。総合的に「役に立った」、「とても役に立った」と回答した学生は86%であった。また、最も評価が高かった内容は、「実習分野の概要を知ること」であった。一方、「どちらでもない」と回答した学生が20%以上だった内容は、「実習分野

について自分で調べることに」、「実習分野を選択することに」であった。「実習分野について自分で調べることに」については、唯一すべての評価項目に回答が分散した。

(2) 実習分野紹介冊子閲覧後の行動

実習分野紹介冊子閲覧後にとった行動を表3に示す。最も多かったのは「自分で詳しく調べた(62%)」であり、次に多かったのは「家族に相談した(35%)」であった。設定した行動の中で最も少なかったのは、「担当教員に相談した(14%)」であった。

表3 実習分野紹介冊子閲覧後の行動(複数回答)

	n (%)
自分で詳しく調べた	18 (62)
先輩の記録を閲覧した	6 (21)
実習指導室で相談した	5 (17)
担当教員に相談した	4 (14)
先輩に相談した	5 (17)
家族に相談した	10 (35)
その他	2 (7)
・中央研に実習期間を聞きに行った	
・友人に相談した	
行動化平均 ± 標準偏差	1.6 ± 1

(3) 実習分野紹介冊子でもっと知りたかった情報に関する自由記述

実習分野を選択するにあたり、実習分野紹介冊子でもっと知りたかった情報に関する記述は16名(55%)より得た。

16名の自由記述から意味内容を1単位ずつ抽出すると、21単位のデータとなった。これらのデータを類似性・相違性を基に帰納的に分析した結果、6つのサブカテゴリーに分類され、最終的に2つのカテゴリーに分類された(表4)。カテ

ゴリーを【 】、サブカテゴリーを[]で示す。

【実習に関する具体的なこと】には、21単位のデータ(86%)が集まった。そのうち、[実習を行う時期について]は38%、[実習の具体的内容について]は24%であり、このカテゴリーの72%を占めた。

【先輩の実習体験】には、3単位のデータ(14%)が集まり、実習を体験した先輩の声や実習記録などの内容が含まれた。

表4 実習分野紹介冊子でもっと知りたかった情報に関する自由記述 (n=21)

	n	%	記述内容
実習に関する具体的なこと			
実習を行う時期について	8	38	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの実習の期間が違うのかと思ったので(冊子を読んで)期間も書いてあればよかったです ・実習期間など具体的に知りたかった ・実習の時期 ・時期について詳細がのっているとよりよいと思った ・日程が決まっている所もあれば、そうでない所もあったので、日程の項目を作った方がみやすい ・実習に行く月、期間等 ・実習期間(9~10月頃、等)が掲載されていれば良かったと思いました ・昨年の実習時期について表記があればもっとありがたかったです
実習の内容について	5	24	<ul style="list-style-type: none"> ・内容(施設などの)を書いてほしかったです ・実習の具体的内容→わからなかったので記録を見に行きました ・実習先でのもっと具体的な実習モデル(?)のようなもの ・実習している写真とか雰囲気のわかるもの ・実習が始まってからの具体的なスケジュールが知れると良かった
実習先について	2	10	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な実習先の名前 ・実際に実習を行った場所
実習先が決定する時期について	2	10	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先が決定する時期 ・実習先が決まる時期
実習中の生活について	1	5	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を行うと、その期間どんな生活をするようになるのか
実習と就職活動について	1	5	<ul style="list-style-type: none"> ・実習と就職活動との兼ね合い
先輩の実習体験	3	14	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を体験した先輩の声などが書かれているといいと思います ・過去の先輩の記録 ・先輩からのコメント

4. 考察

本研究では、実習分野を選択する学生から見た実習分野紹介冊子の有用性を検討し、重要な3つの知見が得られた。

第1に、学生から見た実習分野紹介冊子の有用性を明らかにした点である。実習分野紹介冊子の「役に立った」、「とても役に立った」と評価した割合が85%以上だった項目は、「総合的に」と「実習分野の概要を知ること」であった。一方、「どちらでもない」と評価した割合が20%以上だった項目は「実習分野について自分で調べること」と「実習分野を選択することに」であった。これらの結果から、学生が受動的な項目は評価が高く、能動的な項目は評価が低くなる傾向が示唆された。したがって、実習分野の概要を知ることには有用な方法の1つであり、冊子を用いた情報提供は、新入生に対する実習紹介としても活用できる可能性がある。また、実習分野紹介冊子をもとに学生自身がさらに情報を調べた上で、実習分野を選択するための有用性を高めるためには改善が必要と考えられる。主体的態度は、年次が上がると高まる傾向があるため（高島 2014）、2015年度入学生より実習年次が3年に引き下げられることから、積極的な介入を検討することが必要である。

第2に、実習分野紹介冊子閲覧後の行動頻度を明らかにした点である。最も多かった行動として、「自分で詳しく調べた」が多かった。一方、有用性評価では、「実習分野について自分で調べること」は評価が散見したことから、どのような学生が積極的に行動できるかなどを含め、詳細な検討が必要である。また、「家族に相談した」と回答した割合も一定数いたことから、学生と家族のコミュニケーションツールと同時に、家族への情報提供ツールになる可能性が示唆された。さらに、「担当教員に相談した」と「実習指導室で相談し

た」の回答が低かったことから、教員に相談しやすい関係であれば相談したかなどの検討が必要である。

第3に実習分野紹介冊子でもっと知りたかった情報を明らかにした点である。実習分野紹介冊子は概ね有用であると評価されたが、満足度評価では90%以上の満足度が得られない場合、提供したサービスを疑うことが推奨されている（Broadstock 1995）。このことから自由記述の内容は重要である。最も多くの記述があったものは【実習に関する具体的なこと】の中に含まれる[実習を行う時期について]であり、次に多かったのが[実習の内容について]である。[実習を行う時期]については、現在は4年次に実習を行っていることから、[実習と就職活動について]、[実習先が決定する時期について]も含め、就職活動の観点から学生にとっては重要な情報と考えられた。また、[実習の内容]については、実習に対する不安との関連が考えられ、対処方略としての情報収集の可能性が示唆される。（大木 2013）。しかし、これらの情報は、[実習先について]を含め実習指導室に設置してある先輩の実習記録に記載されている内容である。そのため、実習分野紹介冊子は、作成して配布するだけでなく、配布時のインストラクションや冊子の中で使用方法の説明することの重要性が示唆された。さらに、[実習中の生活について]や【先輩の実習体験】については、体験した学生の視点からより詳細な情報を得たいというニーズがあると考えられた。

今回の研究ではいくつかの限界も存在する。本研究では回答者の学生の実習分野に関する知識、先輩や教員との関係性などの背景情報を得ていない。そのため、既存の情報や関係性が評価にどのように影響するのか検討する必要がある。また、実習分野紹介冊子の有用性をより厳密に検証する

ためには比較試験が必要である。しかし、これまで統一された実習分野に関する情報を提供する機会や冊子もなく、本学科で作成されたいくつかの冊子の有用性も検討されていなかったことから、学生に対する情報提供に関する基礎資料として意義があると考えられる。

5. おわりに

実習分野を選択する学生29名を対象として、実習分野紹介冊子の有用性を検討した。その結果、86%が総合的に役に立ったと評価し、閲覧後の行動の実態、不足している情報が示された。本結果から、実習分野紹介冊子の改善点が明らかになり、より有効に活用するためには、配布時のインストラクションや使用方法など、学生の行動化を促進する説明の必要性が示唆された。

謝辞

社会福祉士・精神保健福祉士実習分野紹介冊子作成、および調査実施にご協力いただきました岩永理恵先生、大澤朋子先生、小山聡子先生、木村真理子先生、大日義晴先生、富田真奈美先生、林浩康先生、久田則夫先生、渡部律子先生、小池晴奈様に深謝いたします。

註

- 1) 本学科における社会福祉士、および精神保健福祉士国家試験受験資格取得率については、2013年度、2014年度、2015年度は、社会福祉士34%、29%、31%、精神保健福祉士4%、3%、4%であった。
 - 2) 2016年度入学生よりコース制は廃止となる。
 - 3) 本学科では、社会福祉士の実習は、医療福祉、児童福祉、障害福祉、高齢福祉、地域福祉の5分野いずれかに学生は配属される。希望分野に配属されるとは限らないため、実習は社会福祉士として
- ジェネリックな力量を獲得することが目的であることを実習分野紹介冊子の序文に記載している。精神保健福祉士は、社会福祉士の積み上げ式で行われているため、単独での国家試験受験資格は取得できない。
- 4) 現在は4年次に実習を行っているため、3年次より援助技術演習・実習指導科目の履修がはじまる。2015年度入学生より実習年次を3年次に引き下げることが決定しているため、2年次より援助技術演習・実習指導科目の履修がはじまり、2年次前期に実習分野を選択することになる。また、精神保健福祉士単独での国家試験受験資格取得も認める。
 - 5) 厚生労働省が定める指定科目の相談援助演習(150時間)に該当し、本学科では社会福祉援助技術演習ⅠからⅤで構成され、Ⅰは最初の演習である。また、精神保健福祉援助演習(基礎)の読替科目でもある。

文献

- Broadstock, MJ. (1995) *Coping and Information Use by People with Cancer: Use of a Cancer Helpline*, University of Melbourne.
- 原田奈津子 (2012) 「福祉実習前における学生の動機づけに関する研究－実習前の支援のあり方について」『長崎国際大学論叢』12, 67-74.
- 川上富雄 (2008) 「社会福祉士制度改正後の相談援助実習の課題と展望」『駒澤大学文学部研究紀要』70, 137-167.
- Krippendorff, K. (1980) *Content Analysis: An Introduction to Its Methodology*, Sage Publications.
- 日本女子大学人間社会学部社会福祉学科 (2015) 『コースガイド (2015年版)』日本女子大学人間社会学部社会福祉学科.
- 日本女子大学人間社会学部社会福祉学科 (2015) 『2016

年度ゼミ説明会』日本女子大学人間社会学部社会福祉学科。

大木友美・井原緑（2013）「看護学生における成人看護学実習デモンストレーションと Sense of coherence (SOC)」『昭和大学保健医療学雑誌』11, 43-48.

高島恭子・黒山竜太・原田奈津子・ほか（2014）「福祉系学生の傾向と変化に対する初年次教育の展開」『長崎国際大学論叢』14, 115-121.

渡辺央（2013）「相談援助実習の実習前評価についての実態」『東京成徳大学研究紀要－人文学部・応用心理学部－』20, 165-172.